

## こころの救急箱 通信 第16号

2019年3月

発行：特定非営利活動法人 こころの救急箱 事務局：電話・FAX：06-6942-9092

Eメール cocorono9090baco@kpa.biglobe.ne.jp

URL <http://www.cocorono99baco.or.jp>

相談電話：06-6942-9090（月曜日夜8時～火曜日朝3時）



「こころの救急箱」では、心の病を抱える方からのお電話を受けることがあります。今回はそのような方々への支援の取り組みをされている井上牧師よりご寄稿いただきました。



## 「心病む人たちと歩む中で見えてきたこと」

日本基督教団 都島教会牧師

井上隆晶

私が心病む人たちと関わるようになったのは、T協会というカルト宗教から脱会された方が教会の信者になり、社会復帰できずに精神病を発病し入院したことによります。その信者さんと関わる中で、私自身が心病む人たちを教会に受け入れる取り組みを始めるようになりました。

今、都島教会では毎月第3火曜日午前10時～12時、精神保健福祉士であり精神病院に勤務されている西川京子氏を講師として招き、テキストを用いて「心の病の勉強会」を行っています。毎回20名ほどが参加されており、今までに統合失調症、双極性障害、境界性パーソナリティ障害、発達障害、依存症などを学び、今年は再び統合失調症を学んでいます。

また、教会員の中に発達障害と診断された方が数名おられるので、毎月第四日曜日午後2時～4時まで「大人の発達障害者ミーティング」を行っています。病気を理解することを通して当事者は病気とのつき合い方が分かりますし、家族や援助者は対処方法を知ることができ、恐れや不安から解放されます。

心病む人たちと歩む中で見えてきたことがあります。一つ目は当事者と援助者の距離の問題です。学びの中で「本人が困っている時と、周りの人が困っている時は病気です」と教えられました。周りの人が困っているのに、本人に自覚がない（病識がない）ことがあるのです。回復の為には、当事者が「自分が病気であること」を受け入れることと「良くなりたい」という意志を持つことが必要です。それなしに周りの援助者は何もできません。二つ目は、回復のためには多くの人の理解と助けが必要であるということです。私たちは病院と教会、家族と当事者の仲間でチームを作って支えることが大切だと思っています。

自分の病気を理解し、その辛さを分かってくれ、共に歩んでくれる人がいたら、人は自殺することなく、生きる勇気が与えられると思います。教会はそのような隣人になりたいと思っています。これからもこの活動が用いられ、多くの病める人が回復されることを祈りたいと思います。